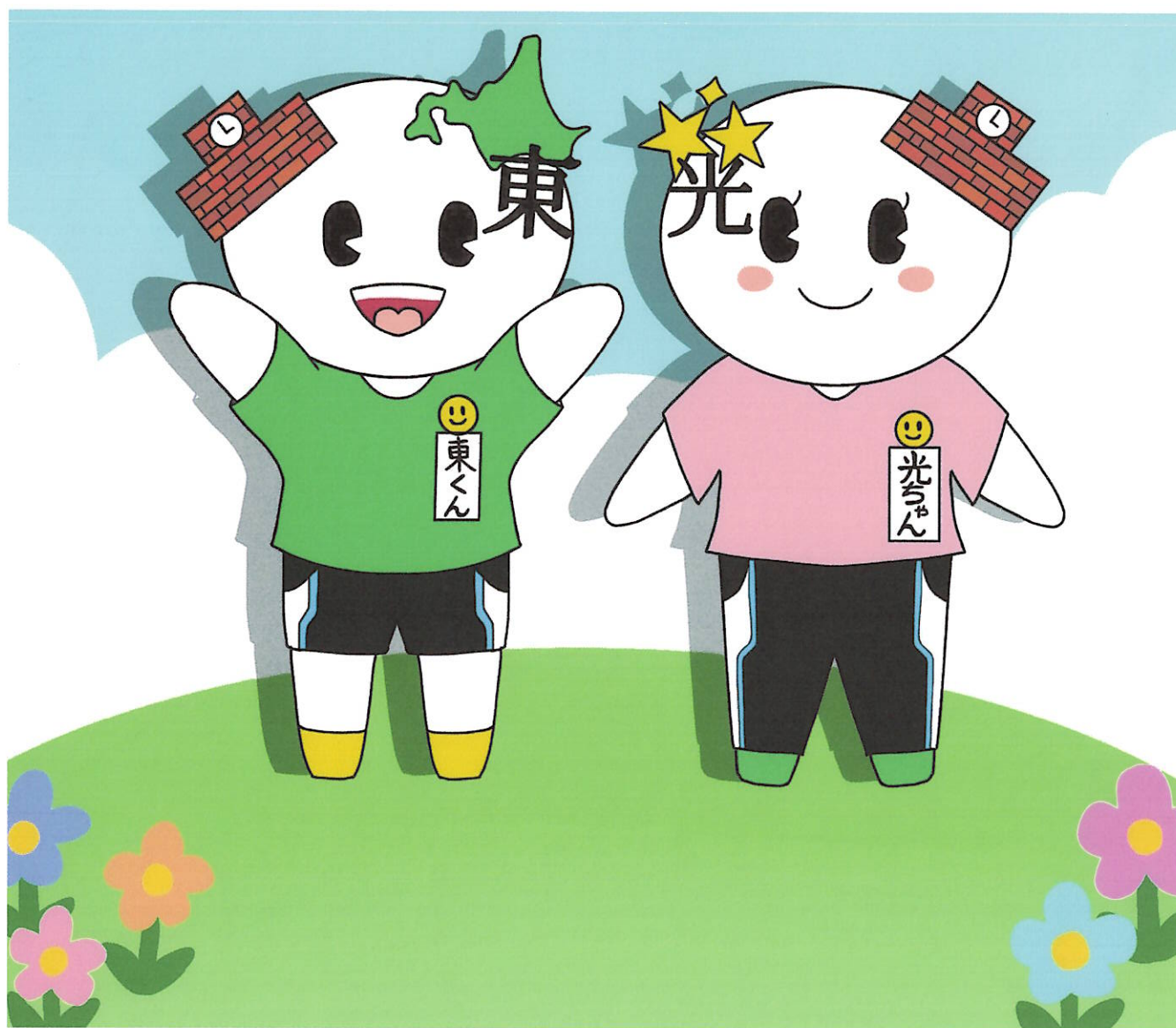


令和5年度

「学校（自己）評価報告書」

岩見沢市立東光中学校



東光中学校オリジナルキャラクター『^{ひがし}東くん』『^{ひかり}光ちゃん』

□学校の概要

推進校	岩見沢市立東光中学校				
校長名	河 村 克 也			教職員数 35名	
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援	合 計
学級数	3	4	3	5	15
生徒数	101	125	123	22	349
住 所	岩見沢市5条東14丁目1番1号				
電 話	0126-22-0329				
FAX	0126-22-1544				
URL	https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/soshiki/tokochugakko/1462.html				
E-mail	tokoc@edu.hamanasu.com				

令和5年度東光中学校経営方針

1 はじめに

社会の在り方が劇的に変わるとともに、新型コロナウイルスの影響や、地球規模での軍事衝突に起因する様々な状況変化など、まさに、予測困難な時代を迎えています。

国内においては、一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会の構築に向け、「Society5.0」の実現を目指した取組が進められています。また、子どもたちには、自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら社会の変化に主体的に向き合い、持続可能な社会の創り手として新たな価値を生み出す資質や能力の育成が求められています。

教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を目指す「未来を創造する」営みです。そして、義務教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われます。学校は、社会の変化を的確に捉え、新しい時代に対応する力を生徒に身につけさせなければなりません。学校での学びに子どもが「ワクワク感」を抱き、教科での学びが自分の設定した課題の解決に活きているという実感を持たせ、「好き」や「夢中」を実感する学びを実現することが大切です。

「教育は人なり」と言われます。生徒にとって最大の教育環境は教職員であることを肝に銘じ、生徒一人ひとりの幸福のために、「子どもが輝く東光中学校」を創りましょう。

2. 教育目標

令和 元年 5月 1日 (改訂)

「志」(こころざし)・「絆」(きずな)

《夢・理想・感謝・学》

《貢献・責任・命・愛》

《志》 将来の「夢」や「理想」を追求し、「感謝」の心を忘れず、「学」び続ける生徒の育成

《絆》 社会に「貢献」し、「責任」を果たす資質を身につけ、「命」と「愛」を大切にする生徒の育成

3. 目指す学校・生徒・教職員の姿

(1) 学校像

- 生徒、教師、保護者、地域が誇りをもてる東光中学校

(2) 生徒像

- 将来の夢や理想を追求し、感謝の心を忘れず学び続ける生徒
- 社会に貢献し、責任を果たす資質を身につけ、命と愛を大切にする生徒

(3) 教職員像

- 教育者として、強い使命感・倫理観と、子どもへの深い教育的愛情を、常に持ち続ける教員
- 教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に、主体的に取り組む教員
- 学校づくりを担う一員として、地域等とも連携・協働しながら、課題解決に取り組む教員

4. 経営の重点

(1) 確かな学力の定着

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを組織的に追求し、「子どもと創る授業」を展開します。
- ② ICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指します。
- ③ 各教科等の特質に応じた言語活動の工夫や探究活動の充実により、根拠や理由を明確にしながら課題を解決する力を身につけさせます。
- ④ ユニバーサルデザインの視点を授業や教室環境に生かし、どの生徒にも「わかる・できる」を保障した授業を展開します。

(2) 豊かな人間性の育成

- ① 学校生活を通して、生徒に人間としての生き方を考えさせ、主体的に判断し行動できる資質や能力を育む教育活動を推進します。
- ② 教職員が組織的に道徳科の授業づくりを工夫し、生徒に道徳的な価値を実践することができる「内面的資質」を養います。
- ③ 生徒一人ひとりが居心地のよさを感じる集団づくりを目指し、支持的・親和的な人間関係を育む「ピア・サポート活動」を充実させます。
- ④ ふるさとに愛着を持ち、岩見沢で生まれ育ったことを誇りに持つ「ふるさと教育」を推進します。

(3) 健康で安全・安心な学校づくり

- ① 望ましい生活習慣の定着に向け、「早寝・早起き・朝ご飯」や情報機器の利用等、様々な視点からアプローチします。
- ② 実効的な避難訓練や日常の安全指導から、生徒に「危険回避能力」を育成します。
- ③ 性、薬物乱用防止、情報モラルや自殺防止対策等の社会的な課題についての指導を充実します。

- ④ 校舎の適切な管理と美化、清掃により、生活環境を整えます。

(4) 生徒指導・教育相談の充実

- ① 教職員が生徒やその保護者を徹底的に大切にする姿勢を貫き、「心に響く生徒指導」を実践します。
- ② 「いじめ」を積極的に認知し、組織的に対応します。
- ③ 生活アンケート（ＱＵ・ほっと）を活用し、客観的な視点を参考に生徒指導を進めます。
- ④ 不登校等の未然防止・早期解決に向け、家庭及び関係機関と連携し、組織的に対応します。

(5) 信頼される学校づくり

- ① 東光コミュニティ・エリアを基盤とし、学校・家庭・地域が連携した教育活動を推進します。
- ② 東光中学校区連携協議会の取組から、岩見沢小・東小と学習指導・生徒指導の系統的指導を目指します。
- ③ 授業参観、保護者懇談会、各種通信や学校便り等により学校の教育活動を積極的に発信します。
- ④ 教職員相互のコミュニケーションを大切にし、「風通しのよい東光中学校」を合い言葉に、職場のセーフティネットとしての機能を高めます。

(6) 今日的な教育課題への対応

- ① 教職員の役割分担や業務の適正化、各種制度を活用した勤務の割り振りや振替等、必要な環境を整備し「働き方改革」の実現を目指します。
- ② 「部活動改革」の流れを的確に捉え、市教委・関係機関との連携・協働を推進します。
- ③ 「校務の情報化」を進めるために、GIGA スクール構想により整備された端末等のＩＣＴ環境を効果的に活用し、校務効率化を目指します。
- ④ 生徒に、望ましい勤労観・職業観を育成し、社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度を育てます。

5 各領域における方針・ねらい ※以下、全体計画に反映させる内容とする。

(1) 教育課程

「知」・「徳」・「体」の調和のとれた育成を目指し、地域や本校生徒の実態、心身の発達段階、特性を十分考慮し、全教職員の手により創意に富む教育課程を編成する。

- ア 広く生徒の実態を把握、分析し、生きて働く「知識・技能」の習得と定着など、[確かな学力]の育成とそれらを活用できる未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を育成する教育課程を編成・実施する。
- イ 「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、地域住民等と学校がつながることにより目標やビジョンを共有し、地域と共にある学校づくりを進める。
- ウ 全教職員が、評価の方針、方法、体制等の共通理解を図り、教育内容、方法について組織的・計画的な評価を推進する。(改善管理、カリキュラム・マネジメント)

(2) 特別活動

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、以下の資質・能力を育成する。

ア 学級活動

- ・学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践することができるようにする。
- ・学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して、実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことができるようにする。

イ 生徒会活動

- ・異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組ませる。

ウ 学校行事

- ・全校又は学年の生徒で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所

属感や連帯感を深め、公共の精神を養う。

(3) 総合的な学習の時間

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を以下のとおり育成する。

ア 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

イ 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

ウ 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

(4) 道德教育

自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養う。

【重点内容項目】

A－(4) 希望と勇気、克己と強い意志

B－(6) 思いやり、感謝

C－(13) 勤労

D－(19) 生命の尊さ

(5) キャリア教育

自己を見つめ、自分と社会との関わり合いを考え、将来における多様な生き方や進路選択の可能性を理解し、自らの意思と責任において自己の生き方や進路選択ができるよう社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力を育む

- ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得
- ・興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成
- ・進路計画の立案と暫定的選択
- ・生き方や進路に関する現実的探索

(6) 人権教育

生徒一人ひとりに人権の意義・重要性を理解させ、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」人権感覚を身に付けさせ、人権が尊重される社会づくりを目指す意欲や態度を育てる。

人権教育で育てたい力

- ① 他の人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考えや気持ちなどがわかるような想像力、共感的に理解する力
- ② 考えや気持ちを適切かつ豊かに表現し、また、的確に理解することができるような、伝え合い、わかり合うためのコミュニケーションの能力やそのための技能
- ③ 自分の要求を一方的に主張するのではなく建設的な手法により他の人との人間関係を調整する能力及び自他の要求を共に満たせる解決方法を見いだしてそれを実現させる能力やそのための技能

(7) ふるさと教育

- ① 岩見沢の自然や文化、先人の苦労や偉業等に触れる体験活動を通して、その良さをを見つけ、ふるさと岩見沢への愛情や誇りをもたせる。
- ② 岩見沢の人々との触れ合いを通して、地域社会の一員として連帯感をはぐくみ、郷土の未来を考えさせるとともに、これからの生き方を考えさせる。
- ③ 岩見沢の人・文化・自然・産業等にふれあう機会を充実し、郷土の未来に働きかける意欲をもたせる。

(8) 食に関する指導

- ① 食事の重要性や栄養バランス、食文化等についての理解を図り、健康で健全な食生活に関する知識や技能を身に付けるようにする。
- ② 食生活や食の選択について、正しい知識・情報に基づき、自ら管理したり判断したりできる能力を養う。
- ③ 主体的に、自他の健康な食生活を実現しようとし、食や食文化、食料の生産等に関わる人々に対して感謝する心を育み、食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を養う。

岩見沢市立東光中学校

自立

共生

	東光中学校校歌	
白樺の日は高く 旭が丘に夢さめて 石狩の野は青く 果てまでひとすじ つゆよと云は流れ ゆるみ道は遠けし あふみの道は通じ たんだい あふみが会へる 東光中学校	奥田 保作 横田 英夫 作曲 作詞	赤レンガ燃えろ 旭が丘にかしこめ ヒネンシリ 悠々水もぐる つゆよともども 学びの道は限りなく たんだい あそその名 東光中学校

令和5年度 東光中学校 校内研修推進計画について

1. (1) 研究主題

「能動的に学び続ける生徒の育成」 ～ 一人一人、個に応じた学びを通して ～

(2) 研究主題の設定理由

令和3年1月に中央教育審議会から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が公表された。そこには、2020年代を通じて実現すべき教育の姿が描かれており、私たち教職員がしっかりとその内容を理解していることが求められる。

本校ではこれまで、授業改善を図るべく研究を重ねてきた。岩見沢市が「主体的対話的で深い学び」の実現に向けて当初実施した「教えて考えさせる授業」をベースに、教える内容を精選し、教える時間をコンパクトにしながら、生徒が主体的に学習に取り組む授業づくりを目指した。その中で、生徒が興味関心を持ったり、生活と繋がるような実践的だったりする問いを工夫することを考えた。さらに、生徒の思考を深め、高めるために効果的なペア・グループ学習についての研究も行った。これらの授業改善を行うことで、生徒が発言したり活動したりする時間が確実に高まり受動的で一方的な授業の様子は減ったのは事実である。しかし、生徒がその日に学習する内容はもちろん、生徒が解いたり考えたりする課題・問いは全て我々教師から与えられた物である。この状態で本当に生徒が主役となる授業で、主体的な学びになるのだろうかという疑問がわいた。生徒の中には学習内容をすでに習得しており「もっと前に進みたい」「もっと難しい問題に挑戦したい」「興味がわいたことを探究したい」などと思っている子がいるかもしれない。逆に、「全然わからないからわからないところに戻りたい」「早くてついていけないから自分のペースで学習したい」などと思っている子もいるのではないだろうか。

私たち教師が様々な工夫をして課題や問いを与えたり学習形態を試したりしたとしても、結局は全て私たちが与えた物で、さらには、クラス全員に平等に等しく与えたものである。生徒の実態に合った公平な学習では無かったのかもしれない。学級の中には多様な個が存在しているが、子供たちが多様化する中でこれまでの一斉授業スタイルでは、一定の学力層に焦点を当てざるを得ない。結果として、いわゆる「浮きこぼれ」「落ちこぼれ」双方を生み出し、救えない状況が起こっているのも事実であり、学習面の不安がその子の中学校生活そのものを脅かす可能性すら秘めていることを自覚して思い切った授業改革が必要な時を迎えている。

岩見沢市では「子供と創る授業」が推進され、実現に向けて各校で研究を行なっている。本校では、「子供と創る授業」はもちろん、「子供が創る授業」を目指し、これまでの教師主導で教師から与えられるのを待つ生徒の姿から脱却して、生徒が自らの学びをデザインし、自分なりの進度で学習を進めていくことを目指す。そのために、単元の導入で教師から学習内容や評価基準、単元のゴール(目指す生徒像)などを提示し、生徒と共有する。さらに、毎時間の振り返りを授業内で丁寧に行い、自らの学習を調整して次時につなげる習慣を身に付けさせる。年間計画を見直し、単元を通してや単元の一部を使って個別最適な学びを実施して個々の学力向上を目標に研究テーマを「能動的に学び続ける生徒の育成」とした。

◆「能動的な学ぶ生徒」とは◆

「能動的に学ぶ生徒」

目的や課題に対して主体的に取り組むのはもちろん、自らの課題や目標を持ち、達成に向けて学習をデザインし、その中で様々な資質・能力を発揮してその解決に向かう生徒。

◆「指導の個別化」とは◆ ～個別最適な学び（文部科学省抜粋）～

「指導の個別化」

教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現し、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う。

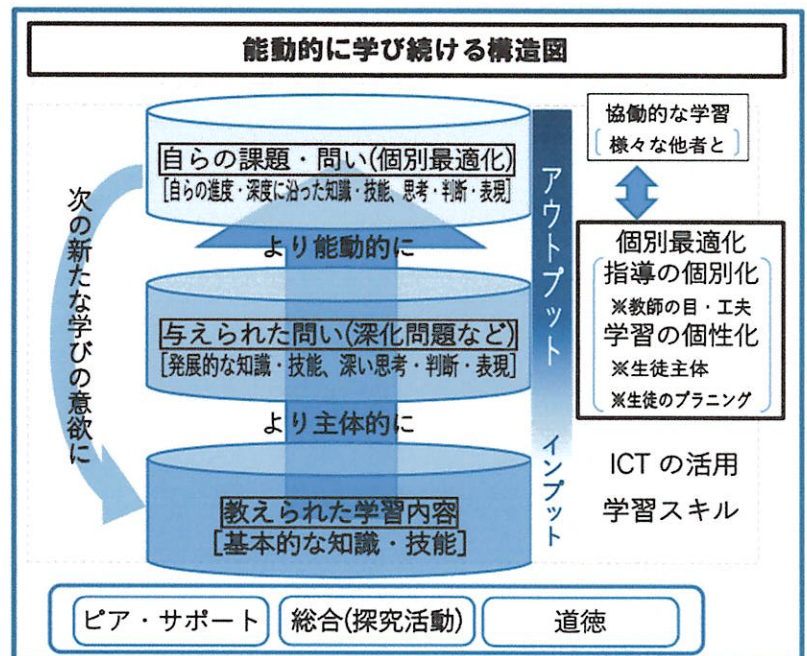
◆「学習の個性化」とは◆ ～個別最適な学び（文部科学省抜粋）～

「学習の個性化」

子供の興味・関心・キャリア形成の方向性に応じ、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する。

（３）能動的に学び続ける構造

これまでの授業のイメージは教師が一方的にその時間の学習内容を教え、生徒は話を聞く時間が授業の時間の大半となっていた。さらには、教えられた知識や技能をその時間の中で発揮することなく終わることがあったかもしれない。そのような中、岩見沢市が取り組む「教えて考えさせる授業」や「子どもと創る授業」はその割合を逆転させ、教師の説明させる時間を短く、生徒の活動時間を確保するというスタイルで効果を示している。しかし、授業の中では教師から与えられた



課題や問いなどに向き合う、いわゆる受動的な学習が多いのが現状である。与えられたことややらされていると感じることには必要感が生まれにくかったり、意欲が湧かなかったりする。結果として、自らで次の課題や問いなどの学びに向かえないことで、学びが連続することがなく、学力の向上にはつながらない。そこで、生徒の状況に応じて柔軟な授業展開を行い、それぞれに合った学習を提供する。さらに、生徒自身が単元の中でゴールに向けて自らの学習をプランニングしたり、自らで問いや課題を設定したりするなど、それぞれが学ぶ時間を確保する。それらを通して主体的な学びが生まれ、それが次への学習意欲につながり、確かな学力の向上につながると考えられる。また、個別最適な学習を行う上でICTの活用は欠かすことができない。学習を効果的・効率的に行い、個人の学習内容を深め、さらには学習スキルの向上の一助ともなり能動的な学習につながる。

(4) 研究仮説について

一人一人が適切な学習を行うために、教師が単元計画や授業展開を柔軟に、子供の実態に合わせて展開することはもちろん、生徒自身が自らの定着度に応じて学習をプランニングする(単元の導入でのオリエンテーションの実施と毎時間の振り返りの徹底を通して)ことで主体的な課題解決が生まれ、それが次の学びへの意欲となり、その学習の連続性が能動的に学び続ける生徒の育成につながるだろう。

(5) 研究内容について(明確な指導観を持つための視点)

① 個別最適な学びを目指した授業スタイル

ア 教え過ぎず、自らの資質・能力を“使う”“アウトプット”する時間を増やす。

(単元計画、授業計画の見直し)

イ 単元の導入で単元のゴール(目指す姿)、学習内容、評価規準(基準)などを提示する。

ウ 振り返りを毎時間授業の中で行い、自らの学習の調整に役立たせる。

② ICTの活用

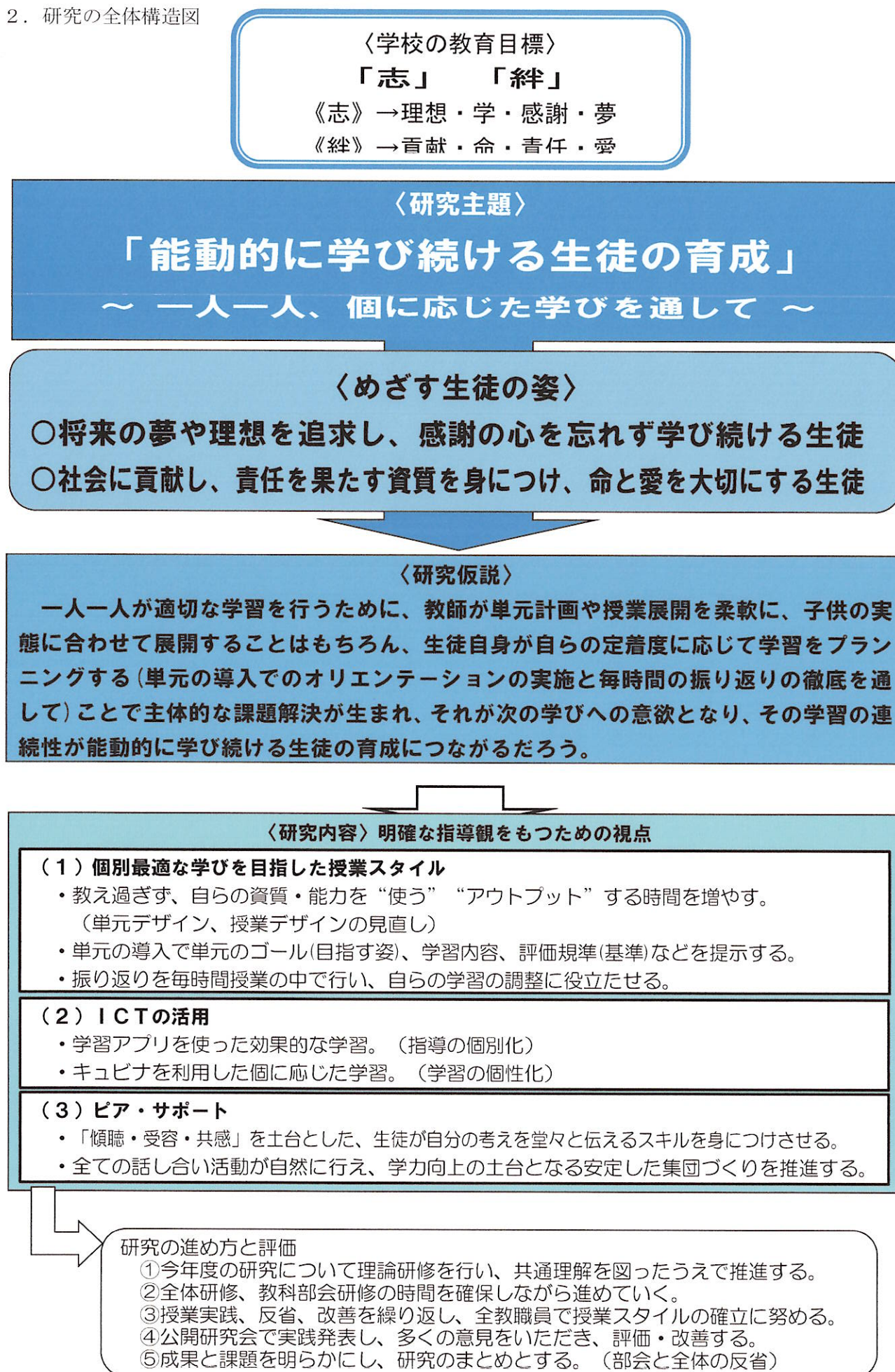
ア 学習アプリを使った効果的な学習。(指導の個別化)

イ キュビナを利用した個に応じた学習。(学習の個性化)

③ ピア・サポート

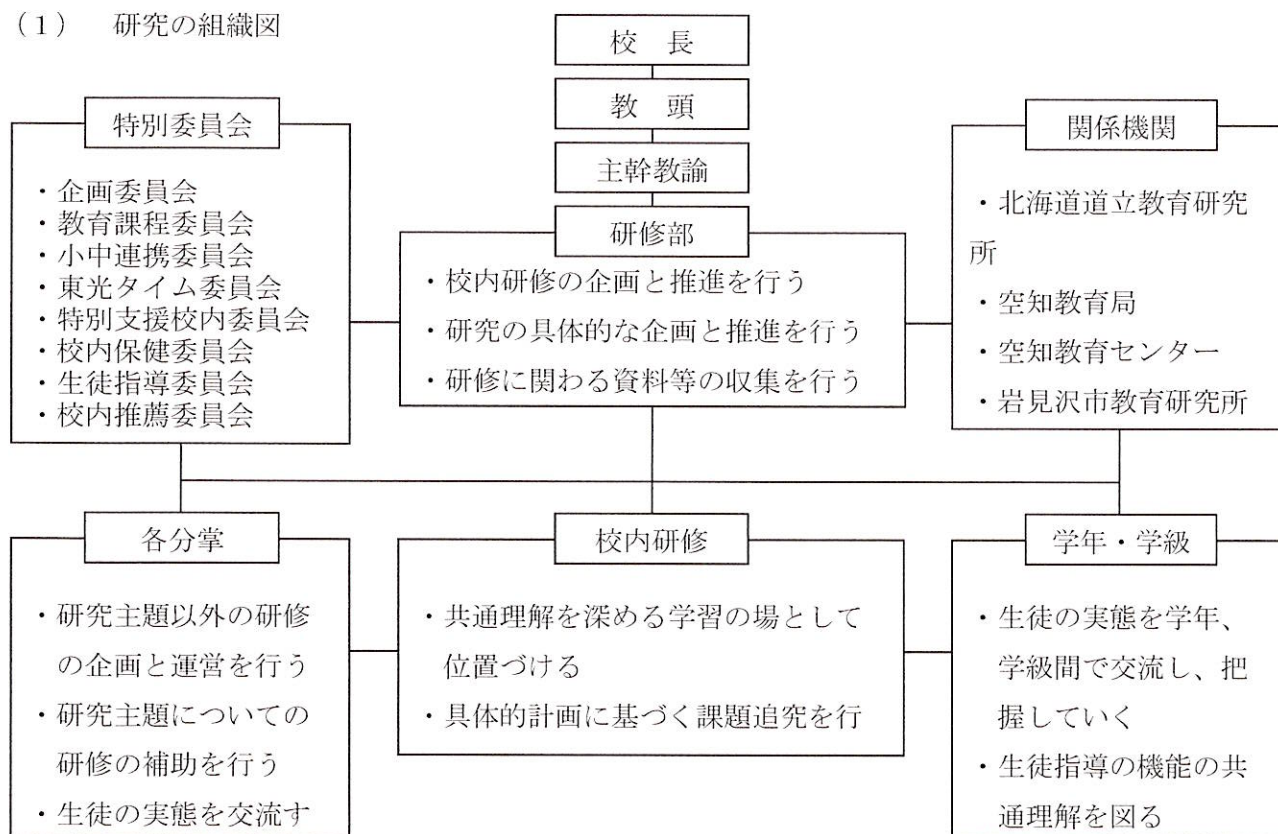
ア 「傾聴・受容・共感」を土台とした、生徒が自分の考えを堂々と伝えるスキルを身につけさせる。

イ 全ての話し合い活動が自然に行え、学力向上の土台となる安定した集団づくりを推進する。



3. 研究の推進計画

(1) 研究の組織図



(2) 令和5年度 研修計画表

回	実施時期	研 修 内 容		運営
		研究主題に関わって	その他の研修	
1	4月5日(水)	今年度の研修について (研修主題・仮説、研修内容、研修計画)(授業について)(ピア・サポート)		研修部
			・生徒指導交流会	指導部
	4/24~28	教科部会(授業参観週間)		
2	5月24日(水)	理論研修(今年度の研修について)、指導案		研修部
3	5月30日(月)		・生徒指導交流会	指導部
4	6月6日(火)	研究授業(研修部が中心となって授業を行う) 研究協議 ※全体		研修部
5	7月25日(火)		・QUの結果・分析に関わる研修	
	9/19~22	教科部会(授業参観週間)		
5	9月22日(金)	授業参観週間 部会研修		
6	10月5日(木)		・特別支援教育に関わる研修	支援部
7	10月〇日(〇)	研究授業(訪問日に合わせて実施) 研究協議	・授業改善についての研修	研修部
8	11月2日(木)	公開研究授業(公開授業数等は後日提案) 研究討議		研修部
9	11月9日(木)		・生徒指導交流会	指導部
	12/11~15	教科部会(授業参観週間)		
10	2月16日(金)	今年度の反省・来年度の方向性 ※来年度については新年度計画会議で説明	・授業改善についての研修	研修部
11	3月13日(水)		・生徒指導交流会	

4. 今年度の研究授業・公開授業（示範授業を含む）の流れ

◎校内研究授業・研究協議 スケジュール

月 日	6月6日（火）
主な内容	研究授業・研究協議

○6月6日（火）時間割 ※清掃なし

※例年は各部会で一本ずつ行う。

学年	1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	帰りの会	放課後	備考
1年	教科	教科	教科	教科	()		協議	・5校時終了後に速やかに帰りの会を行う。 ・研究授業は、各教室で行う。 ・研究協議は、放課後全体で行う。
2年	教科	教科	教科	教科	()		協議	
3年	教科	教科	教科	教科	()		協議	
特支	教科	教科	教科	教科	()		協議	

○6月6日（火）タイムスケジュール

13:20	14:10	14:40	15:30
校内研究授業 1学年【 】 2学年【 】 3学年【 】 特支【 】	帰りの会	校内研究協議 東光ホール	・5校時は授業学級以外は自習として学年の授業を参観する。 ・5校時終了後に速やかに帰りの会を行う。 ・研究協議は、放課後全体で行う。

◎学校教育指導訪問二次 研究授業・研究協議 スケジュール

月 日	10月〇〇日（〇）
主な内容	研究授業・研究協議

○10月〇〇日（〇）時間割 ※清掃なし

学年	1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	帰りの会	放課後	備考
1年	教科	教科	教科	教科	1学級で公開		協議	・授業学級も含めて5校時終了後に速やかに帰りの会を行う。 ・研究授業は、各教室で行う。 ・研究協議は、放課後全体で行う。
2年	教科	教科	教科	教科			協議	
3年	教科	教科	教科	教科			協議	
特支	教科	教科	教科	教科			協議	

○10月〇〇日（〇）タイムスケジュール

13:20	14:10	14:40	15:30
校内研究授業 〇学年【 】	帰りの会	校内研究協議 東光ホール	・5校時は授業学級以外は自習として学年の授業を参観する。 ・5校時終了後に速やかに帰りの会を行う。 ・研究協議は、放課後全体で行う。

◎公開研究会 スケジュール

月 日	11月2日（木）
訪問校	東光中学校
主な内容	研究概要説明、公開授業（全学年・特別支援）、研究協議

5時間目に特設授業1本、4時間目に公開授業〇本、などどう持つか。部としてはできるだけ多くのひとが授業する機会を。ただし、授業反省・協議の時間はとれるようにする。

○11月2日（木）時間割

学年	1校時	2校時	3校時	4校時	給食	昼休み	5校時	6校時	放課後	備考
1年	教科	教科	教科	教科		研修概要説明	公開 ()	研究協議		・給食後、13:15までに公開学級以外は完全下校。
2年	教科	教科	教科	教科			公開 ()			
3年	教科	教科	教科	教科			公開 ()			
特支	教科	教科	教科	教科			公開 ()			

○11月2日（木）タイムスケジュール

12:30	13:00	13:25	13:30	14:20	14:30	15:20	15:30	16:30	16:40
受付	研修概要説明 （研修係） 会場：東光ホール	休憩・移動	公開授業 1学年【 】 2学年【 】 3学年【 】 特別支援【 】	休憩・移動	公開授業の研究協議 会場：授業会場	休憩・移動	講演会 会場：東光ホール	質疑・応答	

本校の授業スタイルについて《授業開始にあたって》

1. 授業スタイル

(1) 基本的な5つの時間

- ・課題、説明、整理、深化、振り返りの時間からなる。

→各教室にマグネットがあるのでそれを利用する。

(2) 5つの時間について

① 課題の時間

●課題の提示に関わって

→ 生徒が解決のために考える必然性や必要感のあるものや身に付ける資質・能力を示す。

ア. 授業の目標やゴール、内容を理解できるもの。

イ. 学習への興味・関心や問題意識を高めることができるもの。

ウ. 主体的に学ぼうとする意欲を育むことにつながるもの。

エ. 学習の見通しをもつことができるもの。

<「課題」の表記に関わって>

1. その日のゴールを明確化する

提示の例) その日の課題が知識・技能の習得であれば

「〇〇ができる」「〇〇られる」と言った提示を基本とする

その日の課題が思・判・表、学びに向かう…の向上であれば

課題の提示の形は自由に。生徒の思考や意欲をくすぐるような工夫を。

2. 「課題」が目標・評価と一体化している(目標の数に合わせて課題が二段構えになることも)

<「課題」をつくる上での考え方(「課題」の時間のあり方)>

1. その日の授業が知識・技能の習得を目指す授業であるなら

→ ア. 授業の目標やゴール、内容を理解できるもの ⇒ 振り返りの時にわかった・わからなかった、
エ. 学習の見通しを持つことができるもの できた・できなかったが見取りやすいように

2. その日の授業が思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性を高めるための授業であるなら

→ イ. 学習への興味・関心や問題意識を高めることができるもの

ウ. 主体的に学ぼうとする意欲を育むことにつながるもの

⇒生徒がワクワクし、問題意識を持って取り組めるような課題や課題提示の方法を。

例: 実物を見せる、動画(実際の映像)を見せる、クイズ・問いかけを入れる など

➡深化の時間(ペア・グループ学習)が活発になり、主体的・対話的で深い学びに近づく!

② 説明の時間

→ 教師による説明は短時間を意識。そのためにも教材研究をしっかりと行い、コンパクトでわかりやすく説明する。

ア. 教えるべきことはしっかり教える。⇒知識・技能が無いと次の学習活動につながらない。

イ. 教材・教具・説明の工夫

具体物やアニメーション、映像による提示／モデルによる演示／例えや例を使って説明／
操作活動を取り入れる／ポイント・コツの提示

ウ、誰でも答えられる問いを重ねて対話的に説明する。(市川理論)



→答えられない状況を作らない

エ、生徒が教師の説明をどれだけ理解したのかを診断・把握する。

説明の時間を効果的に短縮し、生徒のアウトプットの時間を確保するための手立て

☆☆書く時間の精選☆☆

- ・板書を書き写す時間をできるだけ無くす

[書く時間] →自分の考えや答えなどを書く時間に

書き写すことに必死で記憶につながらない。色を
どうするなど余計な雑念も。
→見直し用の記録であればプリントで十分

書くというアウトプットで知識の定着と思考の整理・定着に。

自分で考えた答えやまとめなどを書く時間を授業の中心（授業中に板書を書き写す時間より多い）
になるように。

③ 整理の時間

→ 課題に正対するまとめを示す。習得すべき内容についてペアやグループで教え合うなど、生徒が自
分の理解や技能の体得を確認するための場面。

ア、自力解決の時間を確保する。

イ、自分の考えや答えを互いに伝え合う。

ウ、自分の考えを説明して自分自身の理解を深める。

エ、自分の考えを相手に伝える工夫をして、自分自身の理解を深めたり、友達の考えを生かしたりする。

個人学習 ⇒ **ペア学習**・(グループ) ⇔ 全体

整理(理解確認)の時間は、個人の後には基本ペア学習とし、自分の考えや答えを言語化して
アウトプットさせる。

理想としては

教師からの解き方の確認やまとめの提示が中心にならず、個人思考したことやペア学習したことを教師
が引き出し、つなげて「一緒に解いた」「子ども達の言葉がまとめになった」となるように持っていく。

④ 深化の時間

→ 教えられたことを基に、活用・発展問題、試行錯誤で身につく技能など、生徒が自分の考えをもち、
ペアやグループで共同して解決する場面。

⇒ 思考や知識などが深まりのあるものになったり、グループで話し合うことこそ必要であると感じた
りできるような学習にするための深化問題をこちらから提示していくことが重要。

●深化問題作成に視点（生徒が向き合いたくなるような問い）

ア、みんなで力を合わせたり頑張れば解けそうなレベルの問い

イ、多様な考えに触れられ深まりが出る問い

ウ、自分ごととしてとらえられるような問い

エ、問題意識を強く持つことのできるような問い

オ、多面的・多角的に考えさせられる問い

自分で選んだ問いや課題に取り組む
(自由進度学習・マイプラン学習)

カ、体験的なものや試し合う中で達成できる問いや課題（ロールプレイ含む）

キ、みんなで協働してコツなどを発見する問い

ク、学んだことを生かして制作する問いや課題

個人学習 ⇒ (ペア)・**グループ学習** ⇒ **個人思考** ⇨ 全体

個人の後にはグループ学習を入れて様々な考え方に触れ、理解や思考の深化・定着を図る時間にする。そのためにも、グループ学習後に個人の時間を設け最終的な自分自身の答えや考えを確認させる。

→「なるほど」「そうだったのか」を引き出す。

⑤ 振り返りの時間

★今年度は毎時間授業の中で振り返り時間を行わせられるように。そのためのタイムマネジメント、時間の生み出す方法を模索して下さい。

→振り返りシートの基本形式は別紙の通り。ノートでもかまわないが、振り返る項目を間違えず既述させる。また、課題に対する振り返りを基本とする。

●記述内容

「わかったこと（できたこと）」 「わからなかったこと（できなかったこと）」

「気づいたこと」 「大切なこと」 「工夫したこと」 など

自分の成果と課題を明確化

→メタ認知を促すことでより一層の理解の深化、定着を図る。

振り返り方法に関わって

○勉強が苦手な子・興味が向かない子 ～ その授業の中でわずかでもわかったことやできたことを既述させる。→「長所伸展」

⇒自信をつけさせ、楽しさを感じさせる。

○勉強が得意・意欲の高い子 ～ その授業の中でわからなかったことやできなかったことを既述させる。→「短所克服」

⇒大きな成果を生むのは「短所克服」（精神力と時間を要する）

→単元終了後または定期テスト後にはシート（ノート）を集めて生徒の学習状況を把握すると共に自らの授業改善に努めて下さい。

振り返りも発表までできるといいですね。

振り返りは単に「わかったこと・わからなかったこと」や「できたこと・できなかったこと」を書くだけではなく、思考（考え方）の過程を踏まえた振り返りを行い、「〇〇と考えたので●●ということが導き出せた。」「〇〇を使って考えたが●●で考えた方がわかりやすい。」などまでいけると良い。

2. 授業構成に関わるルール（5つの時間を単元の中でバランスよく設ける）

→主体的・対話的で深い学びを生み出す授業に（子どもと創る授業）

⇒生徒に必要な確かな学力を育てることにつながる

（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性）

（1）授業の構成について

① 毎時間の中で最低限「課題」「振り返り」の時間を設定する。

② 「説明」が中心の授業の場合でも必ず「整理」の時間を設ける。

→先生からの一方通行、インプット中心の授業にならないために。

インプット：アウトプット⇒ **3：7** 学習効果が最も高い（初心者は4：6）

③ 単元を通して「説明」「整理」「深化」がバランスよく入ることが大切

⇒単元を通して「説明」のマグネットばかり使っている場合は自分の授業の見直しを

マグネットの使用は生徒の授業の見直し・道標であり、我々教員の振り返りのために大切

【授業構成例】

課題	課題	課題	課題
説明	説明	深化	説明
整理			
深化	整理		
振り返り	振り返り	振り返り	振り返り

【単元構成 悪い例】

課題	課題	課題	課題
説明	説明	説明	説明
			整理
			振り返り

3. ペア・グループ学習に関わって

- 基本的には「整理」→ペア学習、「深化」→グループ学習を入れていく。

アウトプットする時間を1時間の中に確実にとり、主体的・対話的な学習になるように。

- グループ学習が目的にならず、個人の資質・能力の向上につながるようにどのようなグループ学習を行うか意図的に行うことが必要。
- 1年生の早い段階でグループ学習の方法・スキルについて指導や確認していくことが重要。
- グループの活動が集まったメンバーによって何も生まれない時間にならないように「教科座席」などより効果が出る座席配置を教科担から示していくことも良い。

(1) ペア学習

- 話し手聞き手両方を行うこと。一方通行にならない。
- 疑問は質問させる。批判的にも聞くことができる。

(2) グループ学習

①基本的なグループ学習の形態

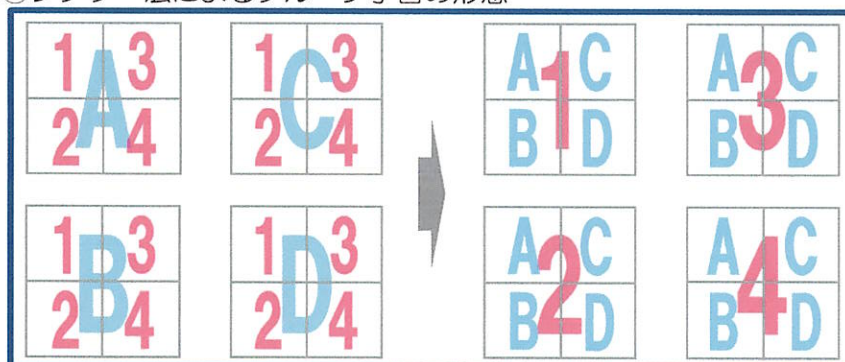
- 昨年度同様4人グループを基本とし、「司会」「記録」「発表」の役割分担をして活動を行う。

※時に役割をこちらから提示せずに自分たちで学習を進めさせるのも良い。

- 発表は教室前に行う。（教室後ろでもOK）
- 必要に応じて再度話し合わせたり、数グループのみ発表させたりして効果的な進行をする。

→思考を深め、多様な考えに触れることが本時の課題となる授業で有効なグループ学習。

②ジグソー法によるグループ学習の形態



- 全体での発表は行わない。グループで話し合ったことを他のグループの人たちに全員が説明する。

→アウトプットを繰り返す。知識や深めた思考の定着を目的とした授業のグループ学習で有効。

どちらの携帯のグループ学習であれ、個人→グループ→個人に返してから全体の発表や交流にいく。
グループ学習で学んだことや考えたことが少しでも自分のものになるように。

4. アウトプットに関わって

◎アウトプットの方法…「話す」「書く」「行動する」が基本。

アウトプットした方が記憶にとどまったり身についたりすると言われる。

○2週間に3回使った情報は必要なものと認識され脳内にとどまる。 ←どう使わせるか！

○なぜをそのままにさせない、「質問」をさせる。 ←まず「なぜ？」を引き出させられるか！

○一番効果的なアウトプットは「教える」こと。 [次が「体験（試し合い）」、「グループ討論（話し合い）」]

⇒アウトプット自体が身につけさせたい確かな学力の向上に効果的。

5. ICT の積極的な活用を

・ICT 活用の3つの機能を把握して使用する

①調査活動（収集・取捨選択） ②表現活動（整理・分析・表現） ③交流活動（発信・評価・改善）

（1）ロイロノート・GoogleFoam・Jamboard・Classroom・キュビナ・検索サイトなど

①調査活動（収集・取捨選択）

- ・調べ学習（検索）
- ・探究活動（検索）

②表現活動（整理・分析・表現）

- ・課題・問いの配布・提出（ロ・G・C）
- ・答え・考えなどの交流（ロ・G・J）
- ・小テスト（ロ・C）
- ・シンキングツール（ロ）

③交流活動（発信・評価・改善）

- ・レポートの提出（ロ・G・C）
- ・振り返り（ロ・G）

※その他

これ使えるよというものがあれば教えてください

6. 教科部会（授業参観週間）に関わって（昨年度）※変更の可能性あり

（1）部会について

→研究授業後の授業反省や協議などを行う部会（必要に応じて指導案検討）

・第1部会 → 国語・社会・英語

・第2部会 → 数学・理科

・第3部会 → 芸体系教科＋養護教諭

・第4部会 → 特別支援

（2）教科部会について

→授業参観週間での部会。研究授業時に指導案検討を行う。テスト、評価・評定の検討・確認など。

①国語 ②社会 ③英語 ④数学 ⑤理科

⑥保体 ⑦音・美 ⑧技・家 ⑨特別支援

（3）授業参観週間に関わって

・今年度3回の授業参観週間を設けた。（9月は放課後に教科部会を行い授業反省）

・教科部会の中でどなたかが授業を行い、それ以外の人が参観を。

・指導案は必要無し。授業反省も放課後や空き時間などに集まって自分たちで行う。

・授業者の反省や参観者の感想は簡単な形で研修部に提出してもらう予定。

今年度のピア・サポートについて

1. ピア・サポートとは

「ピア」は「仲間」、サポートは「支える」。ヘルプ（助ける）、レスキュー（救う）でもない。つまりピア・サポートとは生徒たちが生徒たち同士で相互に支え合う活動のことである。親和的な学級風土の醸成と、話し合い活動に有効なコミュニケーションスキルを高めるために、生徒たちが「耳を傾けること」「支援すること」「友達として思いやりを示すこと」ができるように訓練する、またその過程を監督・指導するプロセス。

2. ピア・サポートの実施

生徒のコミュニケーションスキルを高めるトレーニングを実施する。基本的な流れは、

①アイスブレイク → ②今日の目的説明 → ③演習の方法

→ ④演習の実際（トレーニング） → ⑤シェアリング → ⑥発表

で行う。また、授業を行って終わりではなく、トレーニングを受けた生徒が「日常的に」「継続的に」「学校生活の中で」スキルを活用できるよう、指導・支援をしていく。

とはいえ、たった一回の授業では身につかないので学校生活で上手く活用できていない生徒を見取り、反省・評価・改善を繰り返し、寄り添ったより良い形にしていく。

3. 実施に関わって

（１）C4thの連絡掲示板などで実施学年と学習内容を提示し、確認する。その後、該当学年に指導案とワークシートを配布する。→授業までに確認し、不明な点は係に知らせる。

（２）担任と副担任が交互に行う。（学年間で進めていく）

（３）必要に応じて朝学活でピア・サポートを行う。

	ピア・サポート トレーニング内容	実施	コマ	部会
1 年	傾聴	4月	総合	研修部
	ジョハリの窓	4月	総合	研修部
	プラスのストローク	8月	総合	研修部
	感情を読み取る	10月	総合	研修部
	大切なものランキング	1月	総合	研修部
2 年	一方通行と双方向	4月	総合	研修部
	解決方法	4月	総合	研修部
	紙面相談	8月	総合	研修部
	トラブル回避の応答	10月	総合	指導部
	温かい言葉かけ	2月	総合	研修部
3 年	会話のテクニック（5W1H）	4月	総合	研修部
	リフレーミング	4月	学活	研修部
	対立の解消	8月	総合	研修部
	上手な断り方	10月	総合	指導部

令和5年度

学校運営に関するアンケート（学校評価）結果

11月に実施しました「学校運営に関するアンケート」の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。皆様からいただきました貴重なご意見を踏まえた上で、今年度の成果と課題を洗い出すとともに、今後に向けて工夫・改善を図ってまいります。これからも生徒のため、より充実した教育活動が展開出来るように取り組みますので皆様の変わらぬご理解・ご協力を、よろしくお願い申し上げます。

校長 河村 克也



【学 校 経 営 方 針】

【教育目標】

志～理想・学・感謝・夢
絆～貢献・命・責任・愛

【今年度の経営の重点】

- I. 確かな学力の定着
- II. 豊かな人間性の育成
- III. 健康で安全・安心な学校づくり
- IV. 生徒指導・教育相談の充実
- V. 信頼される学校づくり
- VI. 今日的な教育課題への対応

【本校のめざす生徒像】

- I. 将来の夢や理想を追求し、感謝の心を忘れず学び続ける生徒
- II. 社会に貢献し、責任を果たす資質を身につけ、命と愛を大切にする生徒

令和6年2月

岩見沢市立東光中学校

東光中学校 学校運営に関する「生徒・保護者」アンケート

A：そう思う B：おおむねそう思う C：あまり思わない D：そうは思わない

*数値の表記上、小数点以下を四捨五入していますので、項目によっては100%になっていない場合がございます。

《アンケート回収率》 保護者81.7% 生徒89.1% 教職員100.0%

【確かな学力に関すること】

生徒の回答

- 東光中の授業は、生徒が中心となって課題を解決する授業が多く、進んで授業に取り組むことができていると思う。

A	50.5%	この質問は学校の授業づくりの方向性として大切にしているところであり、数値に満足せずAの回答を限りなく100%に近づけられるように今後も授業改善を進めてまいります。
B	42.1%	
C	6.4%	
D	1.0%	

- 授業では、iPadを活用することが多く、自分で考えたり調べたりする活動に取り組みやすい。

A	63.8%	ICTを効果的に活用する力は、これからの時代に求められております。現状に満足することなく今後も活用場面の工夫を進めてまいります。
B	30.8%	
C	5.1%	
D	0.0%	

- 授業では、仲間との話し合いや、調べる活動があり、楽しく課題を解決することができる。

A	58.5%	ICTの活用に加え仲間とともに学習し、考えを深める力もこれからの時代に求められておりますので、現状に満足することなく今後も改善を進めてまいります。
B	34.1%	
C	6.1%	
D	1.0%	

保護者の回答

- 東光中は、授業や様々な取組により、生徒に学力を身につけさせる教育活動を進めていると思いますか。

A	23.6%	この質問は学校の教育活動の根幹であり、B評価の割合を向上させる必要があります。今後も教育活動の見直しを進めてまいります。
B	61.6%	
C	13.3%	
D	1.5%	

Memo

【豊かな心に関すること】

生徒の回答

- 学校生活を通して、これからの自分の生き方について考えさせられる場面があった。

A	45. 3%	様々な経験を通して自分の生き方について考えることは大切なことです。今後も自分の生き方について考えさせられるように教育活動の改善を進めてまいります。
B	42. 4%	
C	10. 3%	
D	1. 9%	

- 道徳の授業では、友達のいろいろな考えや様々な資料から生きていく上で必要なことを学んだような気がする。

A	61. 9%	道徳の時間は自分の生き方について考える最も大切な部分となる授業です。今後も道徳の授業改善を進めてまいります。
B	32. 4%	
C	4. 2%	
D	1. 6%	

- ピア・サポートの授業から、人との上手な関わり方やコミュニケーションの大切さを知った。

A	60. 1%	生徒同士の良好な人間関係を構築するために実践を重ね、一人一人を大切にし、所属感を高める学級づくりに努めてまいります。
B	34. 4%	
C	5. 1%	
D	0. 3%	

- 総合的な学習を通して、自分が生きている岩見沢、北海道などの歴史や課題などについて深く探究することができたと思う。

A	58. 8%	ふるさとに愛着を持つ活動を総合的な学習の時間に位置づけ、各教科における思考力の向上も目指しながら、今後も充実した探究活動を展開してまいります。
B	34. 7%	
C	6. 1%	
D	0. 3%	

保護者の回答

- 東光中は、学校生活を通して、生徒に思いやりの心や善悪の判断ができる力を身につけさせる取組を進めていると思いますか。

A	22. 3%	B評価の割合が多いことが課題です。思いやりの心の育成や善悪を判断できる力を教育活動のねらいに位置づけ今後も改善を進めてまいります。
B	59. 6%	
C	15. 8%	
D	2. 3%	

- 東光中は、学校生活を通して生徒にこれからの社会で必要になる「社会性」を育む活動を進めていると思いますか。

A	22. 7%	「目では見えない力」である「社会性」を育む経験を大切にし「人づくり」を意識した教育活動の改善を進めてまいります。
B	61. 2%	
C	14. 6%	
D	1. 5%	

【健康・安全に関すること】

生徒の回答

- 自分たちがよりよく成長するためには、生活習慣づくりが大切だということを学んだ。

A	62.1%	規則正しい生活習慣づくりはすべての活動の基本となります。今後も日常的な生徒指導に努めてまいります。
B	34.7%	
C	2.9%	
D	0.3%	

- 事故や災害の恐ろしさについて学び、自分の身を守ることの大切さが分かった。

A	72.4%	事故や災害を身近なものとして受け止められているので、今後は生徒に自分の身の守り方を含めた「危険回避能力」の育成を目指し、避難訓練をはじめとした教育活動の充実を進めてまいります。
B	25.6%	
C	1.9%	
D	0.0%	

- 東光中は整理整頓され、清掃活動の行き届いた美しい学校だと思う。

A	37.3%	B評価が約半数、さらにC評価が約10%であることを重く受け止め、校舎の適切な管理と美化に努めて生活環境を整えます。そのためにも、日常の清掃を特に大切にしていきます。
B	47.9%	
C	12.9%	
D	1.9%	

保護者の回答

- 東光中は、生徒にとって安全・安心な生活を送るために必要な教育活動を行っていると思いますか。

A	26.3%	安全・安心な学校生活を目指し、実効的な避難訓練や日常の安全指導を充実させ、A評価の回答率の向上に努めてまいります。
B	58.1%	
C	14.5%	
D	1.1%	

- 東光中は、授業や部活動、体育的な行事などを通じて、生徒の体力の向上を目指す取組を推進していると思いますか。

A	28.9%	体力、運動能力の向上は今日的な教育課題の一つです。特にコロナ渦の影響もあり体力低下は全国的にも明確となりました。ご家庭にもご協力いただき生徒の体力向上に向けた機運を高めていければと思います。
B	56.7%	
C	12.5%	
D	1.9%	

Memo

【生徒指導・教育相談に関すること】

生徒の回答

- 東光中の先生方は、いじめの防止や解決に向けて私たちの身になって関わってくれる。

A	55. 8%	いじめは決して許されるものではないという強い意識をもって組織的な対応（指導）や迅速な解決にむけて努力してまいります。
B	35. 9%	
C	6. 4%	
D	1. 9%	

- 東光中の先生方の中には、不安や悩みを相談しやすい先生がいて、私たちの話を聞いてくれる。

A	47. 1%	生徒が不安や困り感の解消に向け、相談できる存在として先生を思い浮かべることができることが大切です。相談しやすい先生がいないと回答した生徒が13%であることを重く受け止め、生徒との関わり方などについて改善を図ってまいります。
B	39. 7%	
C	9. 9%	
D	3. 2%	

保護者の回答

- 東光中は、いじめの防止や解消に向けて、生徒への事実の確認や困ったことへの対応などに取り組んでいると思いますか。

A	23. 8%	いじめのない学校を創ることはとても難しいことですがいじめ見逃しゼロを目指します。約22%の保護者が対応に満足していないことを重く受け止め、いじめを積極的に認知し、組織的に対応すべく改善を図ってまいります。ご家庭との連携が不可欠となる事柄ですのでご理解とご協力をお願いいたします。
B	54. 4%	
C	14. 9%	
D	6. 9%	

- 東光中は、思春期を迎えた生徒の不安や困り感の解消に向けて適切に対応してくれていますか。

A	20. 1%	多感な年代を迎えている生徒の不安や困り感の解消に向け、生徒との信頼関係を築く努力をしております。特に、約28%の保護者が対応に満足していないことを重く受け止め、組織的に対応するように指導体制を整えてまいります。お子様の様子で気になることがあれば遠慮なくお知らせください。
B	52. 1%	
C	21. 6%	
D	6. 2%	

【信頼される学校に関すること】※生徒の項目はありません

保護者の回答

- 東光中は、校区の小中学校や地域との関わりを大切にする取組を進めていると思いますか。

A	30. 9%	東光中学校区（東光中、岩小、東小）では、三校が連携し授業の交流や指導の交流など進めています。今年度はコロナ渦前の取組に戻ってきており充実したものとなりました。今後もさらに連携を深め、取組を発信していけるよう努力してまいります。
B	55. 2%	
C	12. 4%	
D	1. 5%	

- 東光中は、学校便りや学級通信等を通して、学校の教育活動や情報を積極的に発信していますか。

A	35. 5%	学校の様子を保護者や地域に発信し、共有することは信頼関係づくりの基本と考えております。今後も様々な教育活動を発信する努力をしております。
B	55. 3%	
C	7. 3%	
D	1. 9%	

【教育課題への対応に関すること】

生徒の回答

- 自分の将来の夢や進路について考える活動があり、これからの生き方を考えるのに役立ったと思う。

A	59.3%	自分の将来や進路を考えることは中学校段階においてたいへん重要なことです。今後もそのような機会を提供できるよう努力してまいります。
B	35.6%	
C	4.8%	
D	0.3%	

保護者の回答

- 東光中は、生徒が将来社会人として生きるための進路指導や、職業に関する指導を充実させていると思いますか。

A	22.1%	生徒に自分の将来や進路を考えさせることはたいへん重要なことです。生徒に、望ましい勤労観・職業観を育成し、社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度を育てる活動を充実させます。
B	55.3%	
C	19.5%	
D	3.1%	

【PTAに関すること】※生徒の項目はありません

保護者の回答

- 東光中は、PTA組織と連携し、生徒のために保護者と協力して活動してくれていますか。

A	32.6%	学校祭では4年ぶりに調理有りのバザーの実施などPTAの皆様にはご協力いただき感謝しております。今後もPTA組織と連携し子どもたちのための教育活動が展開できるよう努力してまいります。
B	57.1%	
C	7.7%	
D	2.7%	

【総合的な学校への思い】※生徒の項目はありません

保護者の回答

- 東光中学校は、保護者にとって期待や要望に応える学校になっていますか。

A	22.5%	約8割の皆様にご肯定的なご意見をいただいておりますが、B評価をA評価にすることが必要であると感じております。今後も保護者の期待や要望に応えられるよう、学校改善を進めてまいります。
B	56.9%	
C	16.8%	
D	3.8%	

Memo

保護者

【確かな学力に関すること】

学習指導にかかわり、定期テスト5教科のみ実施要望2件、社会の授業内容・単元テストの追試2件、定期テスト・英語検定の日程2件の計6件のご意見がありました。

→定期テストについては次年度から主要5教科の実施に変更いたします。芸体系教科については年度始めにどのように知識を見取るか各教科から説明ができるよう現在準備をしております。高校では現在でも十数教科の定期試験が行われています。中学校では高校入学だけではなく、進学後にお子様がスムーズに順応できるよう現在まで検討してきました。ご家庭でも、進学後を見据えて計画的に多くの教科の学習に取り組む力を養っていただけるようご協力をお願いいたします。／指導計画、評価基準、授業で使う教材や単元テスト、授業進度などできる限り統一した形で授業を進め、子ども達の学びに差がでないようこれからも努力していきます。社会の単元テストについては、テスト前に定着させたい気持ちと、合格者があまりにも少なかったため、全体でもう一回受けてもらいました。せっかく苦勞して合格したのに・・・という残念がる気持ちをくんであげられずに申し訳ありませんでした。／テストの日程につきましては、4回の定期テストの範囲（授業日数）が同じくらいになる所で、学力テストとの兼ね合いを鑑み設定しています。令和5年はコロナによる閉鎖もありましたので、例年以上に負担に感じられたかもしれません。次年度は、学校祭から前期期末テストまで今年度よりも長い期間をとることができました。夏休みが長くなりますので、さらに計画的にテスト勉強に取り組んでいただき、テストに備えてほしいと思います。英検については、行事と重なり負担をかけてしまい申し訳ありませんでした。次年度は改善いたします。

【豊かな心に関すること】

クラスでのコミュニケーションの取り方、ピア・サポート授業の不適切発問について計2件のご意見がありました。

→正しい接し方を日常生活を観察しながら指導にあたります。／ピア・サポートの時間で友達の好きなことを知るために使用した「いろいろビンゴ!」の中に、「〇〇先生が好き」という質問がありました。学年の先生を中心に6人の先生の名前が書かれていますが、その先生が好きか嫌いかを問うものではありませんでした。ただ、質問した相手が「いいえ」と正直に答えたならいい気はしません、おっしやる通りです。

【健康・安全に関すること】

給食時間の短さ2件、自転車の乗り方について計3件のご意見がありました。

→給食時間は、準備を早くして、ゆっくり食べられる時間の確保に努めて参ります。／自転車の乗り方については、呼びかけや街頭指導を強化しながら今後も継続して指導していきます。

給食当番のマスク着用、感染症対策によるマスク着用について計2件のご意見がありました。

→給食当番は新型コロナ以前からマスクを着用することになっています。今後は、生徒自身に準備してもらえるのが良いですが、各クラスにもマスクを配置できるようにし、給食当番（配膳・盛り付け）はマスクを着用するよう指導の徹底に努めます。／感染症5類への移行となり、マスクの着用については個人の判断となっています。咳が出る生徒については、咳エチケットについて指導の徹底をしていきたいと思いますので、ご協力のほどお願いします。しかし、指導をしてもあくまでも個人の判断になってしまうため、強制はできないことでもご承知おきください。

【生徒指導・教育相談に関すること】

教員の言葉遣い、教員の指導・対応2件など不適切対応について計3件のご意見がありました。

→教員に対するご意見、ありがとうございます。言葉遣いや不適切な言動はご指摘の通りです。大変申し訳ございません。伝え方、コミュニケーションの取り方について、子どもの気持ちに寄り添った言動がとれるよう指導して参ります。ご指摘いただいた点につきまして、該当学年だけではなく、職員全体で確認して参ります。

教員に話しやすい環境作りとその声への傾聴姿勢、挨拶の伝統継承について計2件のご意見がありました。

→傾聴の姿勢を原則として、相談しやすい環境づくりに努めます。／日常での挨拶を大切に、当たり前元気な挨拶の声が響く学校になるよう、また、卒業生が築いてくれた挨拶の伝統が失われることがないように指導に努めます。

【教育課題への対応に関すること】

進路指導にかかわり、情報の不足、進路指導への熱意について計2件のご意見がありました。

→公立高校の入試制度の変更点等は、わかった時点で参観日後の全体会や進路通信でお知らせします。1・2年生の保護者対象の進路説明会についてもコロナが落ち着きましたので市内の高校の先生をお招きして実施しました。これにつきましては、隔年での実施でしたが、新しい学校（東西）が落ち着くまでは必要と考えています。ご不明・ご心配なことがございましたら、担任や進路担当にご連絡いただき一緒に解決していきたいと思えます。／進路に関わる業務は、ご指摘もありますが、3学年団が全員が志望校へ進学するために心血を注いで調査書作成業務をはじめ各種事務処理を遂行しています。進路に関することについては、伝達ミスがないよう学年団の打ち合わせを密に行って参ります。子どもたちの目の見えるところでは、やはり「授業」となりますので、学力検査に向けて授業づくりに力を注いで参ります。

【総合的な学校への思い】

感謝の言葉（子どもたちの楽しそうな様子、先生方の色々な配慮、高校説明会の実施）について計5件のご意見がありました。

→ご意見ありがとうございます。子どもにとってよりよい教育活動を展開するためには、保護者のご理解とご支援がなくては成立しません。今後ともよろしくお願いいたします。

【その他】

学校祭合唱の順位付けへの要望をいただきました。

→次年度も今年度同様の実施を考えております。コンクール形式ではなくとも、学級として心を一つにしてより良い合唱を作り上げていけるよう、再び一から取り組んでいる途上にあります。コロナ禍前の合唱に追いつき追い越せるよう努力します。いただいたご意見を参考に、今後も合唱発表のより良い在り方について検討して参ります。

【学習・日課に関すること】

①順位制度を無くして欲しいです。

→以前、テスト順位は「知りたい人にだけ知らせる」方法をとっていたそうです。ただ、ほとんどの生徒が「知りたい」と言うので、得点通知表に順位を記載するようになりました。

②朝学習の時間に勉強などをやらせて欲しい。

→朝活動の10分間が皆さんにとって充実した時間になるよう現在検討中です。次年度改めて朝活動の時間について説明がありますのでお待ちください。

【生活に関すること】

③iPadの不適切な使用があるので気をつけてください。

→生活常任委員会から相応しい使用の仕方が出ているのでそれに従った使用をしてください。教員もその見解に従って指導していきます。

④クラスによって指導内容が違うのはおかしいと思う。（iPadの使い方など）

→先生方の連携や相談を密に取りながら統一して指導できるように努めます。

⑤自分たちがよりよく成長するためには生活習慣づくりが大切とありますが、その割に悪い習慣がついている人が一部います。その原因は「その生活習慣作りがなんのためにあるのか」をわかっていないからだと思います。もう一度先生方の間で「生活習慣づくりはなぜ行うのか」について話し合い、もう一度その重要さを生徒に示すべきだと思います。

→ご意見ありがとうございます。学校として確認を行い、正しい生活習慣が身につくように、繰り返し指導していきます。

【環境に関わって】

⑥男子トイレが臭く対策をしてほしい。（2件）

→芳香剤については、揮発性アレルギーの生徒や生徒によっては香りが合わないなどの問題から学校では不適切だと考えています。しかし、意見が多いため、消臭剤ビーズを予算で購入次第、各トイレに設置をしていく方向にしました。教育委員会にも要望を上げていきます。

【生徒会活動に関わって】

⑦3年生と会える機会がたまにしかないので交流する場をもっと増やしてほしい。

→3年生がこの意見を見てとても嬉しい気持ちになっているのではないかと思います。現状としては、授業時数などの関係で行事を増やすことができません。3月には「3年生を送る会」があるので楽しんでください。

【教員の指導に関わって】

⑧なぜ、「〇〇があなたの悪口を言っていたよ」って、友達に教えてもらって、悪口言われたことについて、悲しいから先生に言っても、「誰かに聞いただけでしょ？」って言われて、なんで、怒られた気持ちにならないといけないんですか？

→あなたの気持ちを聞いてほしかったのですね。ごめんなさい。先生方は事実（本当のこと）を知ったうえで、悪口を言った人に事実確認することができます。伝え聞いたことは、事実にはならないことは教頭先生からも説明しましたから、「そうだったんだね、悲しかったね」と伝えるべきでした。